

広田 雅久作品のうち、今回は「風景」を中心に集めてみました。



灯台シリーズ

アッシジ追想

# 広田 雅久回顧展

～メゾチントの風景～

2015. 7/23 - 7/28

Masa, Hirota

銅版画において、良く用いられるエンブレイビング、エッチング・アクアチント（間接法）という技法があります。今回展示されている広田 雅久先生の作品にはメゾチント（直接法）を用いて製作をされていました。メゾチント（直接法）とは、その名の通り、直接傷をつける事を言い、これは初頭に挙げた技法のエッチング・アクアチント（間接法）とは対になる技法とも言えます。始めに「目立て」という作業で銅板を全体に傷をつけますが、その状態で版を刷ると、目立てに入ったインクによって真っ黒に仕上がります。この状態から平らな面を作るとその面のインクが拭き取られるため白が生まれ黒の濃淡を美しく表現出来ることが特長でもあります。しかし、この技法は大変難しく、かなりの手間と技量が必要とされるため国内でもあまりこの技法を用いた作家は少ないともいえます。

広田先生の作品は、メゾチントの特性を活かした幻想的な作品が多く、柔らかな表現でありながら静寂をヴェールに纏ったかのような印象を抱かせます。色彩を用いた作品はコントラストがとても美しく、淡い表現が初めて見る風景を懐かしく、また、愛おしくなるものばかりです。

\*画像・イラスト等の保存・無断使用・転載・二次利用は禁止します\*